

●シリーズ●わが町の文化財へ59

国重要文化財 木造聖観音立像

昭和19年9月5日指定

高野山文書に記載された報恩寺の歴史を物語る貴重な仏像です。この聖観音像は、ヒノキ材の寄木造で、像高1.36m。木造彫眼彩色。衣文の彫りが浅く繊細で平安後期の特徴を持っています。下身の裳上に巻布をつけた姿は観音像としては珍しいものです。

作風が平安時代の有名な仏師である定朝の系列に似ているとされ、京都の工房で制作された可能性が高いものです。

なお、報恩寺は正安3(一二三〇)年の桑原方領家地頭和与状の中に、「赤屋報恩寺」と記され、領家方(高野山)の管轄する寺であったことがわかっています。また、中世同寺の存在を物語る資料として、尾道西国寺文書『西国寺不断経修行勧進并上銭帳』(文明3年・一四七一)に「法音寺隆海」の名が記されており、この頃報恩寺(法音寺)は健在であったこともわかっています。



●シリーズ●わが町の文化財へ60

世羅町指定重要文化財 石室禅師靈碑

平成59年10月9日指定

この塔は、無縫塔と呼ばれる形をとるお墓の一種で、塔身が一つの石で造られ、縫い目がないのでこう呼ばれます。また、塔身が卵の形をしているので、卵塔とも呼ばれています。また、僧侶のお墓として造塔されるものです。

花崗岩製で、全高1.21m、基礎・竿・請座・塔身の4部からなり、請座と中台を一つにした省略された重制無縫塔です。下に切石で2段の基壇が設けられています。

塔身に「康徳開山」「石室和尚靈塔」「貞治五(一二三六)年丙午仲夏」と一行ずつ陰刻があり、この年号から生前から建立されていたことが分かります。

県内最古の紀年銘を有する重制無縫塔で、僧石室善玖は、京都五山の天龍寺や万寿寺、鎌倉五山の内の建長寺や円覚寺等の諸山に住した後、貞治4(一二三五)年に世羅町大字寺町に来て、康徳寺に七堂伽藍を建立したと伝えられています。なお、本塔は京都市東山区の莊嚴藏院開山塔と同一の形式で造立されており、これらのことから康徳寺は、備後国の禅宗寺院では屈指に数えられる寺観を呈していたとされています。

